

## 2014 Vol.2 特集『「学びたい!」意欲を伸ばす言語活動』へのご意見

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

\*「VIEW21」小学版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト(<http://berd.benesse.jp>)でご覧いただけます。

◎本校では、ほぼ全教師が言語活動の重要性を理解して取り組んでいますが、本特集で指摘があるように活動自体が目標になっていると感じます。言語活動は目標達成のために必然的に行うものです。意欲を起こさせるための1つの手段として言語活動は有効であり、しっかりした教材研究と、子どもの伸びる力を発掘する指導が、教師に求められていると思います。 [愛媛県/K小学校]

◎総論で横浜国立大の高木展郎教授が言われた「評価の対象となるのは、言語活動そのものではなく、あくまでも活動を通して付いた力です」ということは、頭では分かっているつもりでも、つい忘れがちです。教師が本当の意味での「言語活動」の姿を具体的につかんでいることが大切になると思います。 [山形県/T小学校]

◎本校でもペアやグループ、学級全体での話し合い活動をいかに組み込むかを考えながら、研究を続けています。秋田県横手市立朝倉小学校の実践のように「皆の言葉が繋がっていくのが良い授業」だと考えますが、本校にとっては最大の壁であり、一人ひとりの教師の課題になっています。 [長野県/S小学校]

◎愛知県高浜市立翼小学校の「自分たちで話し合い、決め、実行する」では、意思決定学習の5つの過程を明確にして取り組むことで、学校内の意識の共有化が図られ、実践につながっていると感じました。 [北海道/M小学校]

◎子どもの内言にこそ、その子の考えが表れていると思います。内言を把握することはなかなか難しいのですが、千葉県千葉市立海浜打瀬小学校のふきだし法は、とても効果的だと思いました。 [新潟県/S小学校]

◎「私を育てたあの時代、あの出会い」では、学級崩壊をした学級を立て直すために、徹底した話し合いを行ったことが印象に残りました。子どもの声を聞くと不平や不満など、わがままが露出されがちですが、時間を掛けて、カウンセリングマインドの精神で、根気強く取り組んだ成果だと感じました。 [神奈川県/T小学校]

◎「Benesse 発 これからの教育」で紹介された「知識構成型ジグソー法」は、他人任せの話し合い活動にならず、一人ひとりの役割・責任が明確になることで、学習効果は高いと思いました。ただ、テーマの選定等、教師の力量が問われる方法だとも感じました。 [沖縄県/K小学校]

◎「つながる学校と家庭の学び」で紹介された兵庫県姫路市立四郷小学校・四郷中学校の取り組みが計画的に行われれば、中1ギャップもかなり解消されるのではないかと思います。また、「学びの架け橋」は9学年分の学習内容が見通せるので、先を見通しながら子どもへのアドバイスやかかわりが持てるという点で、保護者にとってありがたいと思います。 [群馬県/J小学校]

## 【前号 (2014 Vol.2) についての訂正とお詫び】

前号 P.20～21 の記事におきまして、出典の記載漏れと表記の誤りがありました。図2「学習に対する意識 (学習観)」の分類は、東京大学の市川伸一研究室で開発された尺度を参考にしていますが、「環境設定志向」にあたるものは内容・名称を変更して「他者依存志向」としています。また、それぞれの志向の質問項目は、ベネッセ教育総合研究所で作成したものです。現在、ホームページに掲載している記事 (PDF) は、いずれも修正済みです。関係者の皆さまに多大なるご迷惑をお掛けいたしました。心よりお詫び申し上げます。

## 子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、  
子どもたちの成長に寄り添う研究と  
社会への発信を通して、  
一人ひとりが学びに向かい、  
今と未来を“よく生きる”ことに貢献します。

ベネッセ教育総合研究所

## 編集後記

今回の特集や連載取材を通して、地域、家庭、企業といった外部の力を、試行錯誤しながら取り入れている授業を多く拝見しました。現場の先生方からは、やるべき教育活動が多すぎて、やりたくても手が回らないという声を伺います。当研究所も情報発信や調査研究を通して、学校現場の先生方を応援し、地域や家庭とつないでいく一助となればと思います。(杉田)

VIEW21 小学版 2014 Vol.3

2015年2月25日発行 / 通巻第42号

発行人 谷山和成  
編集人 小泉和義  
発行所 (株)ベネッセホールディングス  
ベネッセ教育総合研究所

## ◎お問い合わせ先

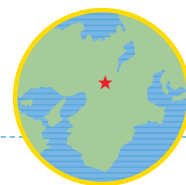
情報編集室  
〒206-0033  
東京都多摩市落合1-34  
電話 042-311-3390

印刷製本 凸版印刷(株)  
編集協力 (有)ペンダコ  
執筆協力 二宮良太、長谷川教  
撮影協力 荒川潤、川上一生  
イラスト協力 幸剛

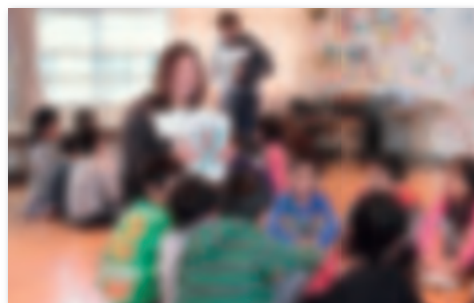
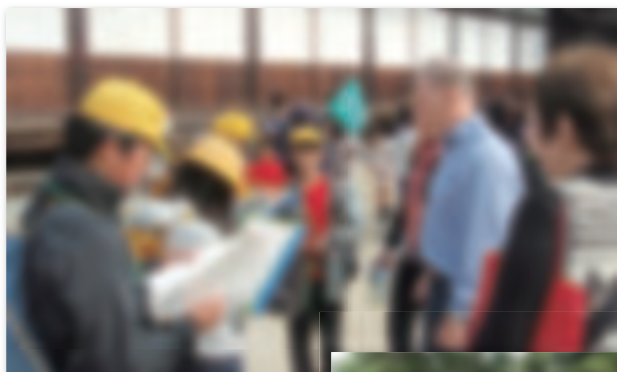
© Benesse Holdings, Inc. 2015

色とりどりの学びの情景

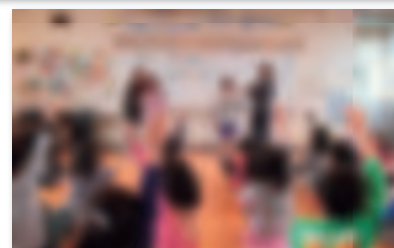
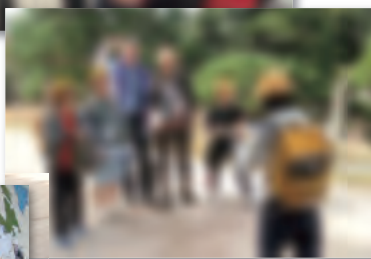
## 英語で大冒険!



表紙の学校 京都府久御山町立御牧小学校



「English Adventure」では5、6人1組で行動。得意に応じて役割分担もする。取材後はお礼に箸袋など手作りのプレゼントをして記念撮影。帰国後にお礼のメールを送ってくれる人もいます。



「English Adventure」で出会った人たちの出身国に記念撮影の写真を貼っていく。アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリアなど世界中に広がっている。

外国語活動は、ALTと担任のチーム・ティーチング。2年生のこの日のダイアログは「Can you ~?」。先生がカードを見せて「Can you run?」と質問すると、「Yes, I can.」と大きな声で返事が! 互いに質問し合うペア活動では、「私もやりたい!」と元気がよく手が挙がった。

久御山町立御牧小学校が文部省(当時)の研究開発校指定を機に全学年で外国語活動を始めて18年。活動では、歌やゲームなどを取り入れ、子どもが耳で聞き、体で意味を覚えることを重視し、留学生や近隣校のALTを招くなど、アウトプットの機会も多く設ける。

3~6年生が行う「English Adventure」は、京都や奈良の観光地で子どもたちが自ら外国人観光客に「Excuse me.」と声を掛けて行うインタビュー活動だ。

「Where are you from?」と聞いて地図に示してもらったり、けん玉を実演して「Let's try!」と試してもらったりと、自分たちが知っている単語を活用して交流を楽しむ。インタビューに答えてくれた外国人は「丁寧な英語で分かりやすかったよ」「頑張ってるね」と子どもの頑張りをたたえる。「自分の英語が通じた!」そうした体験の積み重ねが、次への意欲を高め、異文化への関心も深めていく。

過去1年間の  
特集テーマ

Back Number

2014

Vol.2 「学びたい!」意欲を伸ばす言語活動

Vol.1 学びに向かう土台を築く学級づくり

2013

Vol.4 主体的に学ぶ力を育む—学び方の工夫で学習意欲を高める

Vol.3 家庭学習で学ぶ意欲を伸ばす

全ての記事を、ウェブサイトからPDFでダウンロードいただけます

<http://berd.benesse.jp>

または

ベネッセ 研究

で

検索